

# 消費税率引上げ後の消費動向等 について（8月第1週）

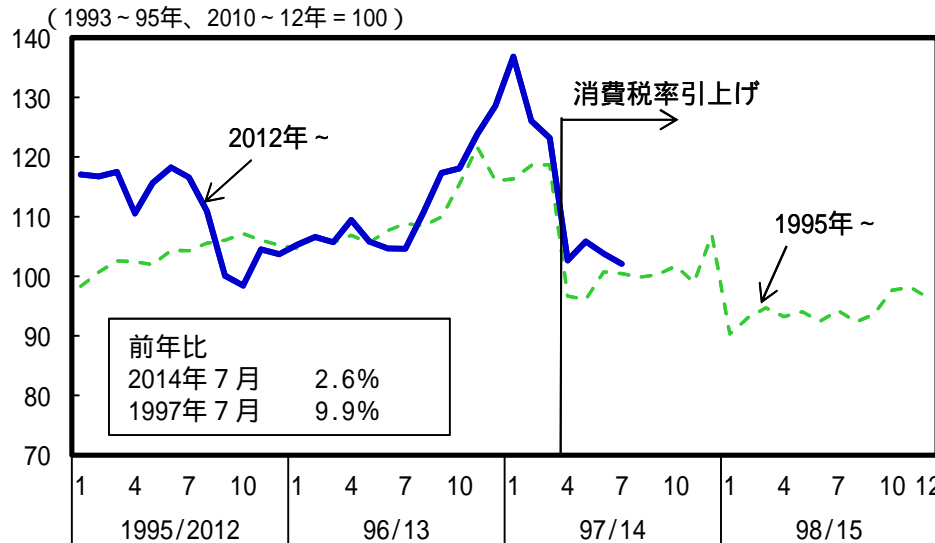
平成26年8月8日

内閣府

# 自動車・家電販売の動向

自動車販売は、7月は前年比でマイナスとなった。また、受注台数の前年比は、ここ数週間、総じて大きな変化はなし。

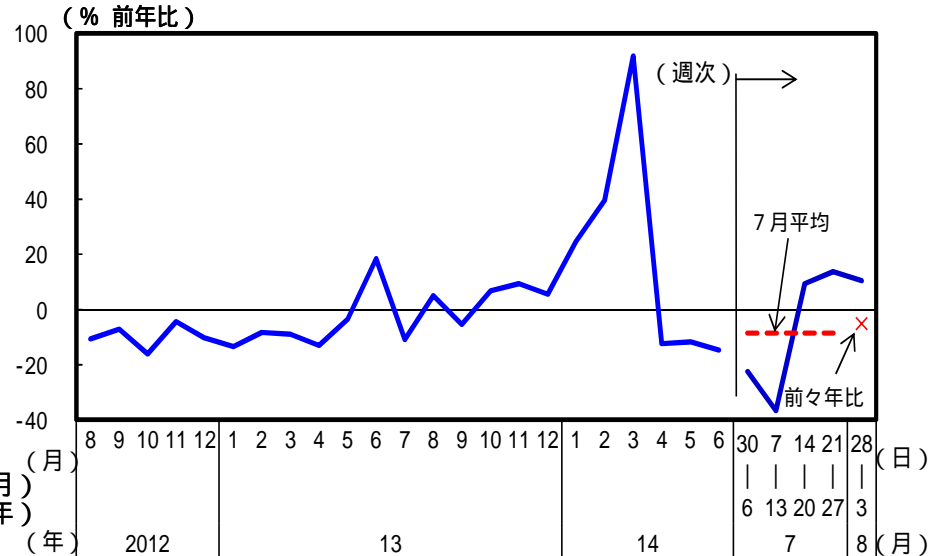
新車販売台数（含軽）



(備考) 1. 日本自動車販売協会連合会、全国軽自動車協会連合会により作成。  
2. 内閣府による季節調整値を指数化したもの。

主要5品目の家電販売は、8月第1週では、前年に比べて気温が高かったことなどから、引き続き前年比プラスとなった。なお、前年の影響を排除するため前々年と比較すると、マイナスとなっている。

家電販売金額（家電量販店主要5品目）（税抜）



(備考) GfKジャパン（全国の有力家電量販店販売実績を調査・集計）により作成。テレビ、エアコン、冷蔵庫、パソコン、携帯電話の5品目の合計。

自動車販売台数（除軽、登録ベース）は、7月は、昨年が弱かったこともあり、前年比で小幅にプラスとなったが、実勢としては6月から横ばいの状況が続いている。受注が弱いことや目立った新型車がないことから、8月も横ばいの状況が続くとみられる。今後は、秋以降に予定されている新型車投入の効果に期待したい。

【業界団体 A】

軽自動車販売台数（届出ベース）は、7月は前年比でマイナスとなった。受注残がなくなったことや、昨年と同時期が新型車の影響で好調だったことが要因と考えられる。

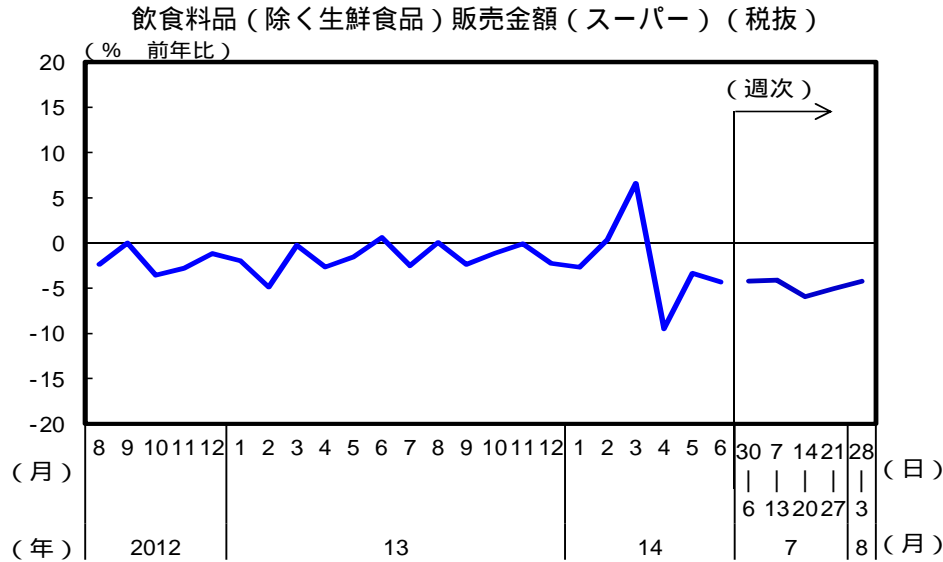
【業界団体 B】

8月第1週は、エアコン・冷蔵庫が前年比で増加し、全体でもプラスとなった。ボーナスの影響もあり、省エネ機能を備えた冷蔵庫など、高機能品に対する需要も見られる。  
【家電量販店】

8月第1週は、エアコンや冷蔵庫が寄与し、全体でも前年比で引き続きプラスとなった。冷蔵庫や掃除機については、高価格・高機能の商品の売れ行きが良い。しかし、テレビについては、高価格・高機能製品として4Kテレビの売上増を見込んでいたものの、想定したほどには伸びていない。4Kテレビに対応する放送波やレコーダーが少ないなど、導入にあたっての業界の取り組みが、なお途上であることが背景。  
【市場アナリスト】

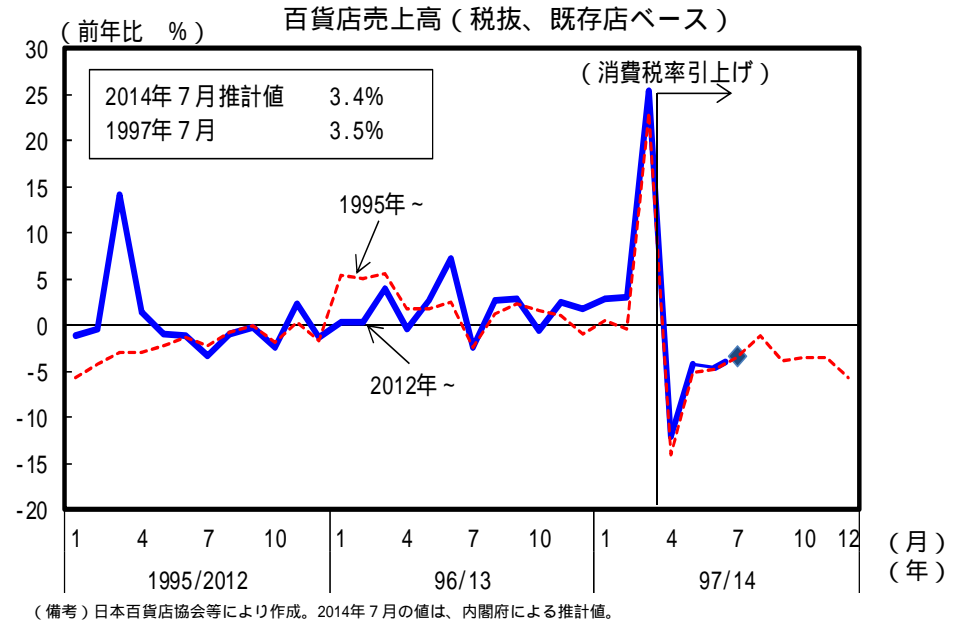
# 飲食料品・百貨店・サービス販売の動向

飲食料品は、8月第1週では、前年比マイナスとなっている。



(備考) 1. KSP (全国の食品スーパーマーケット販売実績を調査・集計) により作成。  
2. 加工食品、飲料・酒類、菓子類の3品目の合計。税抜き価格ベース。  
3. 既存店ベースのため、前年比が低めに出る傾向がある。  
4. 7月第4週は、祝日の影響を取り除くため、7月14日~27日の2週間の前年比を算出している。  
また、7月28日~8月3日のデータは、速報値。

大手各社の7月売上の前年比は、前月よりもマイナス幅が小幅に縮小したとみられる。ただし、昨年、7月に売上が前月比大きく減少していたことに留意が必要。



(備考) 日本百貨店協会等により作成。2014年7月の値は、内閣府による推計値。

7月第4週の売上の前年比は前週から微増。今週は天候が良く、夏物商材が軒並み売り上げ好調だった。最近の売上は、主に天候に左右されていることもあり、反動減からは持ち直している、と認識している。 【食品スーパー】

サービス消費は、旅行については、7月以降も底堅く推移するとみられる。外食については、天候要因に左右されているものの、底堅く推移している。

ボーナスの影響もみられ高額商品の売れ行きは好調であるものの、消費者の節約志向もうかがわれ、低価格商品は伸び悩んでいる。 【旅行会社】

7月を見ると、クリアランスセールの効果は今一つだった。ラグジュアリー品についても、外商は比較的堅調だが一般顧客の動きが改善しない。 【百貨店A】

8月第1週の売上前年比は微増。紳士物が好調であることに加え、特選衣料についても前年比増加に転じた。時計・宝飾は前年比一桁台の減少となり、反動減の影響が薄れてきた模様。一方、ボーナス増加の影響はそれほど感じられなかった。 【百貨店B】